

れた

他のコーディネーター事業所との事業の連携や、コーディネーターの相互の訪問が行なわれている現状が明らかになった。圏域内に適当な施設がない場合の利用者の紹介や、地域の連絡協議会などを通して地域の社会資源情報の交換や、事業の質を高める努力がなされていると考えられる。

また、地域の家族会や当事者の会との連携も多く行なわれていた。利用者主体の支援の実施には当事者や家族といった制度・サービスの利用者からのニーズ把握は重要である。また、これまでの調査により、情報の共有やピア・カウンセリングの実施など、地域の社会福祉資源の一つとして家族会を利用する医師も多いことが明らかになっている<sup>11)</sup>。今回の自由回答でも必要との意見が多かった「地域でのネットワークづくり」のためにも、今後これらの非施設型の資源を活用していくことが求められる。

一方で、一部の施設との連携は少なかった。全国的に設置数が限られているものもあるが、福祉工場や障害者職業能力開発校といった就労関連施設、福祉ホーム、通勤寮といった地域生活施設との連携も少なかった。共同作業所との連携は施設によらずみられたか、たとえば児施設の回答者は肢体不自由児施設勤務施設との連携が多いなど、勤務施設による連携の質の違いもあった。利用者の年齢層による違いと考えられるか、ライフサイクルにしたがい、チームアプローチによる幅広い支援を提供してくためにも、より多くの施設をコーディネーターが見学・訪問する機会をつくる、地域での協議会などの場により多くの施設の参加を促すといった努力が必要であろう。

### 3 ICFについて

今回の自由回答には「新しい情報にアンテナを張ること」が事業の実施に必要なとする意見が多かったか、ICFを活用しているといった回答は少な

く、二割近くの回答者が「分からない」と回答していた。すでに述べたようにICFは従来の障害モデルに代わって、健常者と障害者を問わず、全ての人に適応できるという考え方をもち、そして、生活機能を個人因子だけではなく環境との関わりでとらえる特徴もあり、障害児(者)の社会参加を阻害する要因を解明し改善するために有効な評価法であると考えられる。しかし今回の多変量解析において欠損値として扱われた回答が多かったことは、ICF自体の周知度の低さだけではなく、ICFの概念に基づいた評定法が容易ではなかったこともうかがわせている。障害児(者)を何らかの形で数量的に評価することについての是非はあるかもしれないが、各支援事業の効果を客観的に評価し情報を公開していくためにも、各職種間での理解を共有するためにも、障害種別によらないICFは今後さらに重要なツールとなっていくと思われる。

### 4 環境因子について

今回の調査では社会生活の改善という、やや広い定義に基づいて改善例と非改善例各一事例を想起してもらい、ICFの環境因子に関する評価を実施した。なお今回は、事業の利用者が各年齢層に渡ることか想定されたため社会生活の改善の定義は具体例の呈示を含め明確にはできなかったか、今後はICFにおける社会参加の評価も取り入れ、それによって両群を区分けするといった工夫も必要であろう。

今回、社会生活の改善例であるAさんと、非改善例であるBさんの比較により、家族や友人といったインフォーマルな対人関係、サービス提供者や医療・保健などの専門家といったややフォーマルな対人関係か、周囲の人々の考え方や制度・サービスといったシステムとともに社会参加の改善を左右していることが明らかになった。さらに多変量解析を実施したことにより、個別の回

答選択肢（促進度・阻害度の評点）によるカテゴリスコアから、対人関係については友人との促進的な関係とサービス提供者との促進的な関係が事業利用者の社会参加を改善していることがわかった。家族との促進的な関係は編相関係数では高かったが個別の回答選択肢による寄与度は低く、Aさん・Bさん双方に同様のヘクトルで関与しているため群として両者を判別する変数としては浮かひ上からなかったと考えられる。

また、今回の数量化Ⅱ類による解析に先立ち、各因子の評価点を数量的なデータとみなして相関をとったところほとんどすべての因子間に相関がみられた。これはマルチコ（多重共線性）が生じていることを示し、解析によって得られたモデルが必ずしも正しくない可能性を示唆している。たとえばAさんについて評価するときに $X_1$ 因子に評価aをつけると次の $X_2$ 、 $X_3$ 因子にも同様にaをつけてしまう、黙従傾向といった回答者の心理的な要因も背景に考えられ、ICFの評定に不慣れた回答者が多かったことが原因として考えられる。

一方、「サービス提供者」との関係には回答者自身と事業利用者との関係が多分に含まれていると推測されるため、回答者個人の主観であることを考慮する必要もある。しかしながら今回の結果は、コーディネーターには、事業の利用を通して、感じ取ることで利用できる利用者の変化があることを意味している。今回の質問紙では社会生活の変化を広く定義して質問したか、本来は利用者のライフサイクルに応じた社会参加のあり方が考えられる。したがって今後はそのような変化がみられたのか質的な分析を踏まえた再調査により、社会参加に関与する環境因子を明らかにすることかできると思われる。

## 5 自由回答について

今回は障害児（者）地域療育等支援事業が開

始されて8年目の調査であり、実施施設での経験が集積され、現状を踏まえた意見が多く得られたと考えられる。また、新規に事業を開始する施設がある一方で、事業の財源が平成15年度より一般財源化されたこと、一部都道府県では事業費の減額が行なわれている<sup>3)</sup>など、事業をめぐる近年の情勢が今回の回答に影響を与えた可能性がある。

今回、施設間・職種間連携を進めるにあたりコーディネーターに必要な視点には、連携の拡充と当事者主体があげられ、具体的な手法として関係するスタッフによる会議の開催と、コーディネーター自身のフットワークといったマンパワーの活用があげられていた。そして知的障害児（者）の社会参加については利用できる社会資源の充足と差別や偏見の解消といった社会全体の努力、当事者団体などへの支援といったコーディネーターの努力、当事者およびその保護者（家族）の努力、三者の努力がそれぞれ必要とされていた。このうちとくに家族との関係は、今回の調査で、当事者の社会参加を左右する大きな要因であることが明らかとなっている。精神障害では家族の感情表出のあり方を定量化し、適宜家族にフィードバックすることで当事者の心理的なケアを図る考え方もある<sup>12)</sup>。なお今回の調査では「両親」との関係が取り上げられることが多かったか、とくに児の場合コーディネーターと接する機会が多く評価されやすかったことも考慮するべきであろう。したがってコーディネーターは、より客観的な評価を行なうためにも、今後当事者の家族構成を踏まえ、より多くの家族が支援に参加するような働きかけが必要であろう。

その一方で、今回「その他」に分類された意見をふくめ「コーディネーター事業の独立性・中立性・公共性」についての言及も多かった。今回の調査はコーディネーターからの自由回答を求めているが、返送された調査用紙はコピーされたも

のか多かったこと、施設名の公印のついたものがあったことなど、「施設長の意見」が反映されている可能性もある。したがってコーディネーターの「生の声」をきく目的が完全には果たせなかったかもしれない。コーディネーターは事業専属の職種であり、勤務施設からの独立を保證されるべき存在であろう<sup>2)</sup>。今後、利用者にとって事業受託施設自体が阻害因子とならないように配慮する必要もある。

## E 結論

今回の調査により明らかになった点と今後の課題は次のとおりである。

- 1) 障害児（者）地域療育等支援事業のコーディネーターの多くは様々な施設や機関、職種との連携を実施していたか、知的障害児（者）の地域生活を支援し、完全な社会参加を実現するには、今後就労や地域生活のための社会資源との連携をさらに充実し、必要に応じて新たな資源を開発する必要がある。
- 2) コーディネーターの医療面での相談相手としては精神科医が選ばれることが多く、ライフサイクルに基づく支援のために今後発達障害医療に関わる多くの専門科医の関与が必要である。
- 3) ICFを用いた評価法により、知的障害児（者）の社会参加を左右する環境要因には家族や専門家といった対人関係が大きいことが明らかになった。今後、知的障害児（者）の社会参加を促進する環境を創出するためには、社会参加の質的な検討と家族の各構成員、各専門家との関係をさらに検討することが必要である。
- 4) 現時点ではICFを活用しているコーディネーターは少なく、今後知的障害児（者）の社会参加について国際的な比較を行ない、同時にわが国独自の社会参加のあり方を考案し、提

供されるサービスの質を保證するためにもICFの周知と活用は急務である。このことはコーディネーターの求めている人的資源の開発と充実にも適うものと考えられる。

以上の点をふまえて次年度の研究を計画したい。

研究協力者

堀口寿広、加我牧子 国立精神・神経センター精神保健研究所

## F 参考文献

- 1) 稲垣真澄, 堀口寿広, 加我牧子 発達障害児に対する医療・福祉資源の活用と連携の現状 専門医師と施設・他職種間の連携について 脳と発達 2004, 36 (印刷中)
- 2) 宮田広善 障害児（者）地域療育等支援事業ハンドブック その理解と円滑な実施のために 東京 ふとう社, 2001
- 3) 「市町村障害者生活支援事業」, 「障害児(者)地域療育等支援事業」実施状況調査の結果について 障害者(児)の地域生活支援の在り方に関する検討会(第2回)資料 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課ホームページ  
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/06/s0609-5.html#mokuji>) (アクセス日 2004年3月4日)
- 4) 地域療育等支援事業分科会 平成14年度地域療育等支援事業分科会調査報告 東京 財団法人日本知的障害者福祉協会, 2003
- 5) 障害者福祉研究会 編 ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改訂版 東京 中央法規出版, 2002
- 6) 太田昌孝 ICFと発達障害 精神医学 2003, 45 1175-1184

- 7) 障害者情報ネットワーク ノーマネットホームページ  
(<http://www.normanet.ne.jp/~ww100092/Institute/Shienjigyoku.html>) (アクセス日 2004年3月4日)
- 8) 林 隆, 木戸久美子, 山本元子 入所施設における専門医療機関確保と連携にかかわる諸問題 平山義人, 有馬正高 編 知的障害医療の進歩 地域医療の現状と将来展望 東京 社団法人日本知的障害福祉連盟, 2003, pp44-52
- 9) LeBaron S Pediatrics and psychology a collaboration that works J Dev Behav Pediatr 1985 6 157-161
- 10) 社会福祉法人全国心身障害児福祉財団 心身障害児(者)のライフサイクルカイトライン 東京 青山正征ら, 2003
- 11) 加我牧子, 堀口寿広, 稲垣真澄 精神遅滞の医学的診断と療育連携に関する研究(第1報) 精神遅滞の診断に用いられる検査と連携先についての現状調査 脳と発達 2002, 34 235-242
- 12) 西尾雅明 統合失調症(精神分裂病)と周縁疾患 家族支援/心理教育 日本臨床 2003, 別冊 精神医学症候群 I 216-219

## F 健康危険情報

なし

## G 研究発表

### 1) 国内

#### 論文発表

- 1 稲垣真澄, 堀口寿広, 加我牧子 発達障害児に対する医療・福祉資源の活用と連携の現状 専門医師と施設・他職種間の連携について 脳と発達 2004, 36 (印刷中)
- 2 堀口寿広, 稲垣真澄, 加我牧子 発達障害児

に対する医療 福祉資源の活用と連携の現状 第2報 社会的支援サービスの利用状況について 脳と発達 2004, 36 (印刷中)

#### 学会発表

- 1 Inagakı M, Horiguchi T, Kaga M Formation of social network among facilities, specialists and persons with intellectual disabilities expected role of Japanese physicians Proceedings of 16th Asian Conference on Mental Retardation, Tsukuba, pp775-780
- 2 Horiguchi T, Inagakı M, Kaga M An assessment of utilization of social support services for persons with intellectual disabilities in Japanese physicians Proceedings of 16th Asian Conference on Mental Retardation Tsukuba, pp783-788

### 2) 国外

なし

## H 知的財産権の出願 登録状況

なし

表1 回答者の勤務施設における各職種の有資格者人数

	医師	看護師	保健師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	福祉士	介護福祉士	訪問介護	指導員	保育士	教諭	養護教諭	心理士	介護支援
平均	18	72	03	20	17	13	23	34	36	80	74	41	08	12	17
(SD)	24	174	08	29	23	18	19	44	39	125	76	62	14	21	20

(単位)

表2 利用者の主な年齢層 (該当する回答者の人数と比率 (%))

	3歳未満	3~7歳	7~15歳	15~18歳	18~30歳	30~60歳	60歳以上
最も多い	7 (2.7%)	58 (22.7%)	63 (24.7%)	10 (3.9%)	68 (26.7%)	41 (16.1%)	0
次に多い	16 (6.3%)	38 (14.9%)	50 (19.6%)	39 (15.3%)	66 (25.9%)	30 (11.8%)	0

(単位)

表3 利用者の知的障害の程度 (該当する回答者の人数と比率 (%))

	最重度	重度	中等度	軽度	不明
最も多い	15 (5.9%)	85 (33.3%)	84 (32.9%)	38 (14.9%)	15 (5.9%)
次に多い	17 (6.7%)	62 (24.3%)	95 (37.3%)	48 (18.8%)	13 (5.1%)

(単位)

表4 事業の設備機器等 (該当する回答者の人数と比率 (%))

	乗用車	電話	携帯	Fax	コピー	パソコン	メール	ホームページ	相談室	事務室
事業専用施設兼用	139 (54.5%)	126 (49.4%)	138 (54.1%)	65 (25.5%)	48 (18.8%)	169 (66.3%)	88 (34.5%)	18 (7.1%)	104 (40.8%)	75 (29.4%)
	91 (35.7%)	111 (43.5%)	23 (9.0%)	157 (61.6%)	178 (69.8%)	73 (28.6%)	103 (40.4%)	90 (35.3%)	120 (47.1%)	135 (52.9%)

(単位)

表5 他施設 機関との連携、訪問の経験（該当する回答者の人数と比率（％））

	11) 連携の有無			12) 訪問の経験		
	連携か あった	圏域にある か連携はな かった	圏域になく 連携はな かった	勤務経験か ある	行ったこと かある	行ったこと はない
他のコーディネート事業 実施施設	237 (92.9%)	3 (1.2%)	8 (3.1%)	8 (3.1%)	220 (86.3%)	8 (3.1%)
知的障害児入所施設	143 (56.1%)	23 (9.0%)	58 (22.7%)	29 (11.4%)	147 (57.6%)	45 (17.6%)
知的障害児通園施設	147 (57.6%)	26 (10.2%)	49 (19.2%)	20 (7.8%)	145 (56.9%)	49 (19.2%)
重症心身障害児施設	109 (42.7%)	15 (5.9%)	89 (34.9%)	9 (3.5%)	137 (53.7%)	67 (26.3%)
肢体不自由児入所施設	66 (25.9%)	17 (6.7%)	127 (49.8%)	12 (4.7%)	90 (35.3%)	101 (39.6%)
肢体不自由児通園施設	60 (23.5%)	24 (9.4%)	120 (47.1%)	4 (1.6%)	97 (38.0%)	93 (36.5%)
自閉症児施設	30 (11.8%)	7 (2.7%)	175 (68.6%)	1 (0.4%)	50 (19.6%)	144 (56.5%)
情緒障害児施設	11 (4.3%)	9 (3.5%)	190 (74.5%)	2 (0.8%)	18 (7.1%)	168 (65.9%)
知的障害者更生施設	211 (82.7%)	21 (8.2%)	6 (2.4%)	74 (29.0%)	151 (59.2%)	9 (3.5%)
知的障害者授産施設	184 (72.2%)	31 (12.2%)	20 (7.8%)	34 (13.3%)	183 (71.8%)	16 (6.3%)
福祉工場	23 (9.0%)	35 (13.7%)	145 (56.9%)	0	56 (22.0%)	135 (52.9%)
共同作業所	184 (72.2%)	27 (10.6%)	16 (6.3%)	14 (5.5%)	182 (71.4%)	28 (11.0%)
知的障害者通勤寮	69 (27.1%)	31 (12.2%)	118 (46.3%)	5 (2.0%)	85 (33.3%)	120 (47.1%)
福祉ホーム	35 (13.7%)	39 (15.3%)	136 (53.3%)	3 (1.2%)	58 (22.7%)	135 (52.9%)
クラブホーム	141 (55.3%)	66 (25.9%)	17 (6.7%)	8 (3.1%)	178 (69.8%)	41 (16.1%)
福祉事務所	227 (89.0%)	11 (4.3%)	1 (0.4%)	13 (5.1%)	215 (84.3%)	7 (2.7%)
知的障害者更生相談所	161 (63.1%)	20 (7.8%)	46 (18.0%)	8 (3.1%)	159 (62.4%)	59 (23.1%)
児童相談所	217	13	17	18	188	36

	(85 1%)	(5 1%)	(6 7%)	(7 1%)	(73 7%)	(14 1%)
教育相談所	106 (41 6%)	48 (18 8%)	60 (23 5%)	3 (1 2%)	106 (41 6%)	99 (38 8%)
職業センター	143 (56 1%)	32 (12 5%)	52 (20 4%)	2 (0 8%)	135 (52 9%)	81 (31 8%)
障害者職業能力開発校	36 (14 1%)	32 (12 5%)	140 (54 9%)	0	47 (18 4%)	147 (57 6%)
保健所・保健センター	228 (89 4%)	13 (5 1%)	2 (0 8%)	9 (3 5%)	222 (87 1%)	5 (2 0%)
市区町村役場	242 (94 9%)	4 (1 6%)	3 (1 2%)	7 (2 7%)	237 (92 9%)	1 (0 4%)
社会福祉協議会	219 (85 9%)	21 (8 2%)	2 (0 8%)	8 (3 1%)	227 (89 0%)	3 (1 2%)
社会保険事務所	53 (20 8%)	110 (43 1%)	47 (18 4%)	1 (0 4%)	96 (37 6%)	112 (43 9%)
精神保健福祉センター	75 (29 4%)	42 (16 5%)	99 (38 8%)	4 (1 6%)	82 (32 2%)	122 (47 8%)
児童館	48 (18 8%)	114 (44 7%)	50 (19 6%)	3 (1 2%)	100 (39 2%)	105 (41 2%)
権利擁護センター	85 (33 3%)	48 (18 8%)	79 (31 0%)	1 (0 4%)	96 (37 6%)	115 (45 1%)
病院・施設内の家族会	117 (45 9%)	79 (31 0%)	19 (7 5%)	5 (2 0%)	129 (50 6%)	83 (32 5%)
地域の家族会	193 (75 7%)	32 (12 5%)	8 (3 1%)	4 (1 6%)	185 (72 5%)	38 (14 9%)
当事者の会	102 (40 0%)	58 (22 7%)	48 (18 8%)	1 (0 4%)	114 (44 7%)	89 (34 9%)
その他 ( )	1 (0 4%)	0	2 (0 8%)	0	2 (0 8%)	0

表6 医療機関との連携

紹介元・先	回答数 (%)	平均 (±SD) 箇所 (単位 箇所)	利用者の平均 (±SD) (単位 人)
病院 (小児科)	紹介を受けた	80 (31 4%)	2 0 (2 4)
	紹介した	69 (27 1%)	1 7 (1 7)
診療所 (小児科)		30 (11 8%)	1 5 (2 3)
		30 (11 8%)	1 3 (1 9)
病院 (他科*)		104 (40 8%)	1 7 (1 4)
		132 (51 8%)	1 7 (1 1)
診療所 (他科*)		35 (13 7%)	1 0 (0 9)
		53 (20 8%)	1 2 (0 9)

表7 コーティネート事業の導入により社会生活に

	もともと改善の見られた例 (Aさん)	もともと改善の乏しかった例 (Bさん)
平均(±SD)年齢	24.9(±15.1)(歳)	25.4(±13.1)
性比(男 女)	154 74(人)	134 82
促進因子	サービス提供者との関係 公的サービス 教師などとの関係 家族との関係 周囲の人たちの考え方	医療従事者との関係 サービス提供者との関係
阻害因子	家族との関係	家族との関係 周囲の人たちの考え方

表8 ソフト的要素(人的サポート)のうちもともと影響があった人物

	Aさん		Bさん	
	促進的な影響	阻害的な影響	促進的な影響	阻害的な影響
両親	11	1	4	8
父親	1		1 <sup>b</sup>	
	3 <sup>c</sup>		2	2
母親	1		5	4
	3	2		
祖父母	7			
	2			
祖母	1			1
兄弟姉妹	9		1	4
	4	2(うち義兄1)		
妻	1	1		1
親戚	1			
職場の人	1			
施設のスタッフ	1			
	1			
ボランティア	1			
学校の教諭			1	

<sup>a</sup>回答がAさん Bさんのどちらなのか、促進度 阻害度のどちらに影響していたのか不明

<sup>b</sup>回答はBさんについての回答であるか促進度 阻害度のどちらに影響していたのか不明

<sup>c</sup>回答はAさんの促進度に影響していたことが明確



表9 数量化Ⅱ類による各要因の寄与度（偏相関係数）

独立変数	偏相関係数
年齢	0.13
施設の種別	0.12
ICFの環境因子	
1 ハートの要素 特殊な用具 装置や科学技術	促進度 0.20 阻害度 0.34
2 自然環境とその変化	0.25 0.20
3 ノフト的要素 家族との関係	0.40 0.23
友人との関係	0.40 0.29
地域の人々の関係（隣人、知人、仲間）	0.16 0.15
ボランティアとの関係	0.24 0.23
ペット、コンパニオンアニマルとの関係	0.23 0.28
医療 保健など専門職（医師、看護師、ワーカー）との関係	0.25 0.35
サービス提供者との関係	0.35 0.24
教師など本人に影響力を持つ人との関係	0.21 0.28
4 周囲の人たちの考え方・態度（習慣や信念、価値観など）	0.26 0.21
5 公的・私的なサービス・制度・政策	0.31 0.35
	相関比 ( $\eta^2$ ) 0.78

表10-1 数量化Ⅱ類による年齢の寄与度（カテコリーテータ）

年齢	カテコリーテータ
10歳未満	0.03
10歳代	0.09
20歳代	0.02
30歳代	-0.03
40歳代	-0.11
50歳代	-0.20
60歳代	-0.24

表 10-2 数量化Ⅱ類による施設種類の寄与度（カテゴリータータ）

施設の種別	カテゴリータータ
知的障害者更生施設（入所 通所含む）	0.05
知的障害者授産施設（入所 通所含む）	-0.10
知的障害児施設（入所・通園含む）	-0.08
重症心身障害児施設	0.04
その他の施設（複合センター、生活支援センター など）	0.07

表 10-3 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度（カテゴリータータ）

ハートの要素	カテゴリータータ	
促進度の評価	促進はない	0.15
	やや促進的である	-0.08
	ある程度促進的である	-0.13
	きわめて促進的である	-0.24
	完全に促進的である	-0.01
	わからない（不明である）	-0.22
阻害度の評価	阻害はない	-0.16
	やや阻害的である	-0.02
	ある程度阻害的である	-0.10
	きわめて阻害的である	0.06
	完全に阻害的である	<b>0.55</b>
	わからない（不明である）	0.50

表 10-4 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度（カテゴリータータ）

自然環境とその変化	カテゴリータータ	
促進度の評価	促進はない	0.16
	やや促進的である	-0.05
	ある程度促進的である	-0.18
	きわめて促進的である	-0.17
	完全に促進的である	0.30
	わからない（不明である）	-0.27
阻害度の評価	阻害はない	-0.07
	やや阻害的である	-0.11
	ある程度阻害的である	0.18
	きわめて阻害的である	0.25
	完全に阻害的である	0.15
	わからない（不明である）	-0.04

表 10-5 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテゴリーデータ)

ソフト的要素	家族との関係	カテゴリーデータ
促進度の評価	促進はない	0.27
	やや促進的である	0.35
	ある程度促進的である	-0.21
	きわめて促進的である	-0.25
	完全に促進的である	-0.35
	わからない (不明である)	0.18
阻害度の評価	阻害はない	-0.15
	やや阻害的である	-0.13
	ある程度阻害的である	0.09
	きわめて阻害的である	0.25
	完全に阻害的である	-0.02
	わからない (不明である)	-0.09

表 10-6 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテゴリーデータ)

ソフト的要素	友人との関係	カテゴリーデータ
促進度の評価	促進はない	0.18
	やや促進的である	-0.13
	ある程度促進的である	-0.01
	きわめて促進的である	<b>-0.48</b>
	完全に促進的である	-0.41
	わからない (不明である)	0.53
阻害度の評価	阻害はない	-0.10
	やや阻害的である	0.05
	ある程度阻害的である	0.37
	きわめて阻害的である	0.21
	完全に阻害的である	0.22
	わからない (不明である)	-0.29

表 10-7 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテゴリーデータ)

ソフト的要素	地域の人々との関係	カテゴリーデータ
促進度の評価	促進はない	-0.01
	やや促進的である	-0.00
	ある程度促進的である	-0.10
	きわめて促進的である	0.06
	完全に促進的である	-0.18
	わからない (不明である)	0.22
阻害度の評価	阻害はない	-0.03
	やや阻害的である	-0.10
	ある程度阻害的である	0.17
	きわめて阻害的である	0.17
	完全に阻害的である	-0.06
	わからない (不明である)	-0.04

表 10-8 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテゴリーデータ)

ソフト的要素	ボランティアとの関係	カテゴリーデータ
促進度の評価	促進はない	-0.06
	やや促進的である	0.39
	ある程度促進的である	-0.02
	きわめて促進的である	0.06
	完全に促進的である	-0.01
	わからない (不明である)	-0.08
阻害度の評価	阻害はない	0.08
	やや阻害的である	-0.11
	ある程度阻害的である	<b>-0.65</b>
	きわめて阻害的である	-0.27
	完全に阻害的である	-0.35
	わからない (不明である)	-0.02

表 10-9 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテコリーテータ)

ソフト的要素	ハト,コハニオアニルとの関係	カテコリーテータ
促進度の評価	促進はない	-0.04
	やや促進的である	-0.19
	ある程度促進的である	-0.12
	きわめて促進的である	<b>0.81</b>
	完全に促進的である	-0.24
	わからない (不明である)	0.07
阻害度の評価	阻害はない	0.00
	やや阻害的である	0.36
	ある程度阻害的である	-0.36
	きわめて阻害的である	0.35
	完全に阻害的である	<b>1.61</b>
	わからない (不明である)	-0.06

表 10-10 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテコリーテータ)

医療・保健など専門職との関係	カテコリーテータ	
促進度の評価	促進はない	-0.15
	やや促進的である	-0.14
	ある程度促進的である	0.04
	きわめて促進的である	0.03
	完全に促進的である	0.02
	わからない (不明である)	0.47
阻害度の評価	阻害はない	0.01
	やや阻害的である	-0.15
	ある程度阻害的である	-0.02
	きわめて阻害的である	-0.12
	完全に阻害的である	<b>1.30</b>
	わからない (不明である)	-0.01

表 10-11 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテコリーテータ)

ソフト的要素	サービス提供者との関係	カテコリーテータ
促進度の評価	促進はない	0.22
	やや促進的である	<b>0.50</b>
	ある程度促進的である	0.11
	きわめて促進的である	-0.21
	完全に促進的である	<b>-0.45</b>
	わからない (不明である)	-0.00
阻害度の評価	阻害はない	-0.04
	やや阻害的である	0.00
	ある程度阻害的である	0.32
	きわめて阻害的である	-0.34
	完全に阻害的である	-0.25
	わからない (不明である)	0.13

表 10-12 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテコリーテータ)

ソフト的要素	教師などとの関係	カテコリーテータ
促進度の評価	促進はない	0.17
	やや促進的である	0.21
	ある程度促進的である	0.00
	きわめて促進的である	-0.10
	完全に促進的である	-0.20
	わからない (不明である)	-0.23
阻害度の評価	阻害はない	0.04
	やや阻害的である	-0.13
	ある程度阻害的である	-0.09
	きわめて阻害的である	0.23
	完全に阻害的である	<b>-1.01</b>
	わからない (不明である)	0.17

表 10-13 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテゴリーデータ)

周囲の人たちの考え方・態度		カテゴリーデータ
促進度の評価	促進はない	-0.06
	やや促進的である	-0.07
	ある程度促進的である	0.08
	きわめて促進的である	-0.01
	完全に促進的である	<b>0.46</b>
	わからない (不明である)	-0.40
阻害度の評価	阻害はない	-0.02
	やや阻害的である	-0.16
	ある程度阻害的である	-0.01
	きわめて阻害的である	0.13
	完全に阻害的である	0.05
	わからない (不明である)	0.26

表 10-14 数量化Ⅱ類による ICF 環境因子の寄与度 (カテゴリーデータ)

公的 私的なサービス 制度 政策	カテゴリーデータ	
促進度の評価	促進はない	<b>0.40</b>
	やや促進的である	0.03
	ある程度促進的である	-0.03
	きわめて促進的である	-0.17
	完全に促進的である	-0.34
	わからない (不明である)	0.30
阻害度の評価	阻害はない	-0.14
	やや阻害的である	0.06
	ある程度阻害的である	-0.12
	きわめて阻害的である	<b>0.50</b>
	完全に阻害的である	<b>0.53</b>
	わからない (不明である)	-0.25

I 障害児（者）地域療育等支援事業（以下 コーティネート事業とします）を実施している（申し込みの窓口となっているものを含む）、施設・機関についてお尋ねします

1) あなたの勤務されている施設の種別をお教え下さい あてはまるものひとつに○をつけて下さい

- 1 (入所 通所) 更生施設    2 (入所 通所) 授産施設    3 児(入所 通園) 施設  
 4 重症心身障害児施設    5 通勤寮    6 グループホーム    7 福祉ホーム    8 福祉工場  
 9 共同作業所    10 その他 (                    )

2) 施設の規模をお教え下さい (入所者 \_\_\_\_\_人 通所者 \_\_\_\_\_人)

3) 施設のある地域(区市町村)の人口をお教え下さい あてはまる数字ひとつに○をつけて下さい

- 1 5千人未満    2 1万人未満    3 5万人未満  
 4 10万人未満    5 20万人未満    6 50万人未満    7 50万人以上

4) あなたの勤務されている施設・機関の職員数をお教え下さい なお、嘱託など非常勤の場合は一人あたり0.5人として計算して下さい また、複数の資格・免許をお持ちの方はそれぞれを計数して下さい

医師 \_\_\_\_\_人 (専門科 \_\_\_\_\_科) 看護師 \_\_\_\_\_人 保健師 \_\_\_\_\_人 理学療法士 (PT) \_\_\_\_\_人 作業療法士 (OT) \_\_\_\_\_人 言語聴覚士 (ST) \_\_\_\_\_人 社会福祉士 \_\_\_\_\_人  
 介護福祉士 \_\_\_\_\_人 ホームヘルパー \_\_\_\_\_人 児童指導員 \_\_\_\_\_人 保育士 \_\_\_\_\_人  
 教諭 \_\_\_\_\_人 養護教諭 \_\_\_\_\_人 心理士 \_\_\_\_\_人 ケアマネージャー \_\_\_\_\_人

II コーティネート事業についてお尋ねします

5) 本事業の開始年はいつですか? 平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月開始

6) 回答記入時点で本事業の利用登録をされている方は何人ですか? \_\_\_\_\_人

7) この1年間に、本事業を利用された方についてお教え下さい

利用された方の合計人数は何人ですか? \_\_\_\_\_人

\*うち、巡回指導・訪問診査 \_\_\_\_\_人 外来療育等指導 \_\_\_\_\_人 地域生活支援 \_\_\_\_\_人  
 施設支援一般指導 \_\_\_\_\_人

8) この1年間に、本事業を利用された方の主な年齢層をお教え下さい 最も人数の多かったものには◎を、つぎに多かったものには○を、それぞれつけて下さい

3歳未満	3歳～7歳未満	7歳～15歳未満	15歳～18歳未満	18歳～30歳未満	30歳～60歳未満	60歳以上

9) この1年間に、本事業を利用された方の知的障害の程度をお教え下さい 最も人数の多かったものには◎を、つぎに多かったものには○を、それぞれつけて下さい 障害程度の分類法にはさまざまなものか考えられますか、ここでは知能指数 (IQ) を参考にして区分してあります

最重度 療育手帳のAに相当 IQは20以下	重度 手帳のAの1に相当 IQは21～35	中等度 手帳のAの2あるいはBの1に相当 IQは36～50	軽度 手帳のBの2に相当 IQは51～75	不明 (検査データがない、わからないなど)

裏面にも質問項目があります よろしくお願ひします



10) コーティネート事業の設備機器等についてお教えてください つきのうち事業専用を用意されているものすべてに○を、勤務施設と兼用のものには△をつけて下さい

乗用車 電話（固定電話） 携帯電話・PHS FAX コピー機 パソコン メールアドレス  
ホームページ 相談室 事務室

### Ⅲ 他の施設との連携についてお尋ねします

11) この1年間に、表に示す施設・機関と連携を取ったことがあるかどうかお教え下さい あなたの勤務されている施設や機関以外であてはまるものに○をつけて下さい なお、ここでは連携を「利用者の紹介を受けたり、利用者の情報を提供したりすること、利用者についての相談を受けること」とします

12) さらに それぞれの施設や機関に直接行ったことがあるか、お尋ねします あてはまるものに○をつけて下さい

	11) 連携の有無			12) 訪問の経験		
	連携があった	圏域にあるか連携はなかった	圏域になく連携はなかった	勤務経験がある	行ったことがある	行ったことはない
他のコーティネート事業実施施設						
知的障害児入所施設						
知的障害児通園施設						
重症心身障害児施設						
肢体不自由児入所施設						
肢体不自由児通園施設						
自閉症児施設						
情緒障害児施設						
知的障害者更生施設						
知的障害者授産施設						
福祉工場						
共同作業所						
知的障害者通勤寮						
福祉ホーム						
クルーフホーム						
福祉事務所						
知的障害者更生相談所						
児童相談所						
教育相談所						
職業センター						
障害者職業能力開発校						
保健所 保健センター						
市区町村役場						
社会福祉協議会						
社会保険事務所						
精神保健福祉センター						
児童館						
権利擁護センター						
病院・施設内の家族会						
地域の家族会						
当事者の会						
その他 ( )						

IV 医療機関・職種との連携についてお尋ねします

13) 医療（治療・療育）に関することを相談できる医師はいませんか？

はい いいえ

\*はいと答えられた方、それは何科の医師ですか？ \_\_\_\_\_科

14) この1年間に、連携をした医療機関、医師それぞれの数をお答えください

	利用者の紹介などを受けた			利用者の紹介などをした		
病院（小児科）	個所		人	個所		人
診療所（小児科）	個所		人	個所		人
病院（小児科以外の）	_____科	個所	人	_____科	個所	人
診療所（小児科以外の）	_____科	個所	人	_____科	個所	人

V 本事業利用者の日常生活への環境因子の影響度についてお尋ねします

15) この1年間に、利用者の中で就学や就労など日常生活面に大きな変化がみられ、「もっとも改善がみられた」人と「もっとも改善かとほしかった」人をそれぞれ1名ずつ思い浮かべて下さい。その方々の日常生活への記の要因が促進的に影響したのか、阻害的に影響したのか判断していたとき、その程度に応じて、あてはまると思われる数字に○を各々つけて下さい（同じ環境要因であっても、内容によりご本人の日常生活の改善を阻害することも促進することもあると思われまますので、例えば促進度か2、阻害度か3などの判定をして下さい）  
なお、以下の項目は日本語として一部理解しにくい表現もありますか、世界保健機関（WHO）が制定した国際生活機能分類（ICF）に基づいて作成しております。国際比較検討を行うためのものですので、ご了承下さい

促進度の評価		阻害度の評価		もっとも改善がみられたAさん ( 歳 男・女)		もっとも改善かとほしかったBさん ( 歳 男 女)	
0 促進はない（影響の程度は5%未満）	1 やや（25%未満）促進的である	0 阻害はない（影響の程度は5%未満）	1 やや（25%未満）阻害的である				
2 ある程度（50%未満）促進的である	3 きわめて（50～95%）促進的である	2 ある程度（50%未満）阻害的である	3 きわめて（50～95%）阻害的である				
4 完全に（96～100%）促進的である	9 わからない（不明である）	4 完全に（96～100%）阻害的である	9 わからない（不明である）				
環境的な要因と具体的な例				促進度 (効果)	阻害度 (逆効果)	促進度 (効果)	阻害度 (逆効果)
1 ハートの要素 特殊な用具・装置や科学技術 (例) 教育や就労のために改良された視聴覚器具などや技術、車いす、治療的薬物、スロープ、自動ドア等				0 1 2 3 4 9	0 1 2 3 4 9	0 1 2 3 4 9	0 1 2 3 4 9
2 自然環境とその変化 (例) 地形、気候、住環境（照明、環境音、振動、空気の質）等				0 1 2 3 4 9	0 1 2 3 4 9	0 1 2 3 4 9	0 1 2 3 4 9
3 ノフト的要素 人的サポート（支援） *カノコ内で最も影響かあると思われるのはとなたてしたか？ それぞれ当てはまるものに○をお書きください 家族との関係（両親、兄弟姉妹、祖父母、里親）				0 1 2 3 4 9	0 1 2 3 4 9	0 1 2 3 4 9	0 1 2 3 4 9

	もっとも改善か みられたAさん				もっとも改善か とほしかったBさん															
	促進度		阻害度		促進度		阻害度													
友人との関係	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
地域の人々との関係（隣人，知人，仲間）	9					9					9					9				
ボランティアとの関係	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
ペット，コンパニオンアニマルとの関係	9					9					9					9				
医療 保健等専門職（医師，看護師，ワーカー）との関係	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
サービス提供者との関係	9					9					9					9				
教師など本人に影響力をもつ人との関係	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
4 周囲の人たちの考え方 態度（習慣や信念，価値観など） （例）家族，友人，地域の人々，専門家の個人的な態度，社会全 体の考え方等	9					9					9					9				
5 公的 私的なサービス・制度・政策 （例）社会福祉 医療 教育・労働などの国 自治体のサービス や制度・政策，公共交通，建築，電気や水道，経済等	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
	9					9					9					9				

VI 最後に、あなたご自身のことについてお尋ねします

- 16) 性別をお教え下さい (男 女)
- 17) 年齢をお教え下さい \_\_\_\_\_ 歳
- 18) 知的障害福祉経験年数をお教え下さい \_\_\_\_\_ 年
- 19) よろしければ、お持ちの資格や免許等をお教えてください 当てはまるもの全てに○をつけて下さい
- 1 看護師 2 保健師 3 理学療法士 4 作業療法士 5 言語聴覚士 6 社会福祉士  
7 介護福祉士 8 ホームヘルパー 9 ケアマネージャー 10 児童指導員 11 保育士  
12 教諭 13 養護教諭 14 心理士 15 その他 ( )
- 20) コーディネーター業務に ICF を活用されていますか はい いいえ ・ 分からない

VII 施設間・職種間連携を進めるにあたってコーディネーターに必要な視点や、知的障害児（者）の社会参加についてお考え等かございましたら、ご自由にお書きください

以上で質問は終わります。ご協力、ありがとうございました

平成14年度障害児(者)地域療育等支援事業協議一覧

☆ 支援継続、拠点継続      ★ 支援継続 拠点新規      × 支援 拠点共に新規

実施主体	番号	拠点	施設名	施設種別	経営主体	障害保健福祉圏域	
北海道	継続	1	きたみ学園	知的児	(福)めぐみ会	北 網	090-0807北見市川東355
		2 ☆	道立太陽の園	知的児	(福)北海道社会福祉事業	西胆振	052-8585伊達市幌美内町36-1
		3	おしま学園	知的児	(福)侑愛会	南渡島	049-0282上磯郡上磯町字当別697
		4	つつしヶ丘学園	知的児	(福)帯広福祉会	十 勝	080-2475帯広市西25条南4丁目10
		5	北海道療育園	重心	(福)北海道療育園	上川中部	071-8144旭川市春光台4条10丁目
		6	道立白糠学園	肢体療護	(福)北海道社会福祉事業	釧 路	088-0351北海道白糠郡白糠町和天別155番地1
		7	しりべし学園	知的児	(福)黒松内つくし園	後 志	048-0101寿都群黒松内町字黒松内565-2
		8	美唄学園	知的児	(福)北海道更生会	南空知	072-0811美唄市東7条南2丁目1-2
		9	ひまわり学園	知的児	(福)北光福祉会	遠 紋	099-0622紋別郡生田原町字安国302-(7)
		10	静内ヘテカリの学園	知的児	(福)静内ヘカリテ	日 高	056-0001静内郡静内町字目名426-1
		11	稚内緑ヶ丘学園	知的児	(福)緑ヶ丘学園	宗 谷	098-6642稚内市字声間村字声間原町4067-13
	新規	12	帯広あおそら	知的児通園	(福)慧誠会 上北地方教育 福祉事務組合	十勝	080-2472帯広市西22条南3丁目13-1
青森県	継続	13	公立もみのき学園	知的児	(福)青森県社会福祉事業	上十三	039-2571上北郡七戸町字蛇坂45-2
		14	県立八甲学園	知的児	(福)青森県社会福祉事業	青 森	030-0132青森市大字横内字桜臺63-1
		15	森田学園	知的児	西北五広域福祉事務組合	西北五	038-2817西津軽郡森田村大字床舞字鶴喰104-2
		16	弘前大清水学園	知的児通園	(福)藤聖母園	津 軽	036-8163弘前市大字清原4-9-1
		17	やまぼと寮	知的更生	三戸郡福祉事務組合	八 戸	039-1702三戸郡倉石村大字中市字小成88-2
岩手県	継続	18	県立あすなろ学園	肢体	青森県	青 森	038-0003青森市大字石工字江渡101
		19	大田の園	知的更生	(福)千晶会	盛 岡	020-0053盛岡市上大田穴口53
		20	ルンビニー学園	知的児	(福)尤林会	岩手中部	028-3171石鳥谷町中寺林12-54-7
		21	恵水園	知的更生	(福)修愛会	久 慈	028-0071久慈市小久慈町65-16-2
		22	第二わかたけ学園	知的更生	(福)若竹会	宮 古	027-0097宮古市崎山第5地割字内ノ沢94
		23	県立中山の園	知的更生 知的	(福)若手県社会福祉事業生 知的 団	二 戸	028-5133一戸町中山字軽井沢139-1
		24	虹の家	知的更生	(福)フレンドンブいわて	胆 江	029-4501金ヶ崎町六原町内表道下31-22
		25	ふしの実学園	知的更生	(福)ふしの実会	両 磐	029-3402東磐井郡藤沢町新沼字西風46-4
		26	ひかみの園	知的更生	(福)愛育会	気 仙	029-2205陸前高田市高田町字大隈8-8
		27	石上の園	知的授産	(福)睦会	釜 石	028-0531遠野市綾織町新里第22地割字熊野沢13
		28	奥中山学園	知的児	(福)カナノの園	二 戸	028-5133一戸町中山字大塚4-6
		29	興郷塾	知的授産	(福)愛護会	胆 江	023-0132水沢市羽田町字水無沢2-1
		30	第一わかたけ学園	知的通所授産	(福)若竹会	宮 古	027-0063宮古市山口5-5-10
		31	みずき園	知的通所授産	(福)修倫会	久 慈	028-0014久慈市長内町18-14-3
		32	ブナの木園	知的通所授産	(福)平成会	両 磐	021-0902一関市萩荘字駒下1-19
		33	慈愛福祉学園	知的通所授産	(福)大洋会	気 仙	022-0006大船渡市立根町字下欠125-14
		34	大松学園	知的更生	(福)豊心会	釜 石	026-0055釜石市甲子町第3地割139
		35	北萩寮	知的更生	(福)方尤会	岩手中部	024-0082北上町分2-62-1
		36	みちのく療育園	重心	(福)新生会	盛 岡	028-3623矢巾町煙山24-1
宮城県	継続	37	宮城県啓佑学園	知的児	(福)宮城県福祉事業団	仙台(仙台市を除く)	981-3213仙台市泉区南中山5-2-1
		38	ひたかみ園	知的更生	(福)石巻祥心会	石 巻	986-0853石巻市門脇字元捨喰5-1
		39	第二高松園	知的更生	(福)洗心会	気仙沼 本	988-0524本吉郡唐桑町字只越366-5
		40	白石あけぼの園	知的授産	(福)白石陽光園	仙 南	989-0232白石市福岡長袋字小倉山14-1
		41	ほっとさわべ	知的更生	(福)プロメッサ	栗 原	989-5172栗原郡金成町姉齒字梨崎道ノ上7-1
		42	あやめ学園	知的更生	(福)大崎誠心会	大 崎	989-6251古川市小野字嵐山1-1
		43	若草園	知的更生	(福)恵泉会	登 木	987-0901登木郡東和町木川字西欄木6-1
秋田県	継続	44	東山学園	知的児	(福)花輪ふくし会	大館 鹿角	018-5201鹿角市花輪字家内58-8
		45	秋田県阿桜園	知的児	(福)秋田県社会福祉事業	横手 平鹿	013-0064横手市赤坂字仁坂105
		46 ☆	秋田県小児療育センター	心身障害児総合通園センター	(福)秋田県小児療育事業 団	秋田周辺	010-0941秋田市川尻町字八橋境2-11
		47	大日寮	知的更生	(福)山本更生会	能代 山本	018-2303山本郡山本町森岳字上台111-1
		48	角間川更生園	知的更生	大曲仙北広域市町村圏組	大曲 仙北	014-1413大曲市角間川町字町頭98
山形県	新規	49	秋田県心身障害者コロ	知的更生	(福)秋田県社会福祉事業	本庄 由利	018-0602由利郡西目町出戸字孫七山3-2
		50	大野岱吉野学園	知的更生	(福)東北報公会	鷹巣 阿仁	018-3452北秋田郡鷹巣町七日市字家向46-1
福島県	継続	51 ☆	県立総合療育訓練センター	肢体 知的児通園	山形県 (福)山形市社会福祉事業 団	村 山	999-3145上市市河崎3-7-1
		52	こまくさ学園	知的児	(福)福島県福祉事業協会	村 山	990-2305山形市蔵王牛郷1366-2
		53	東洋学園児童部	知的児	(福)福島県福祉事業協会	相 双	979-1171双葉郡富岡町大字大音字蛇谷須79
		54	白河こひつし学園	知的児	(福)故人会	県 南	961-8061西白河郡西郷村大字小田倉字上上野原
		55	桜が丘学園	知的児	(福)桜が丘学園	県 中	963-7855石川郡石川町猫崎359-1
茨城県	継続	56	福島市清心荘	知的更生	(福)陽光会	県 北	960-8254福島市南沢又字水門下160-1
		57	ほんだいの庄あおば	知的更生	(福)福島県社会福祉事業	会 津	969-3283那麻郡猪苗代町大字長田字西五十庵
		58	はなわ育成園	知的更生	(福)故人会	県 南	963-5407東白川郡塙町西河内字野土平7
		59	あかまつ荘	知的更生	(福)南陽会	南会津	967-0001南会津郡田島町大字長野字上の山3417
茨城県	新規	60	県立コロニーあすなろ	知的更生 知的児 重心	(福)茨城県社会福祉事業 団	水戸地方	319-0306東茨城郡内原町杉崎1460
		61	鹿島更生園援護寮	知的更生	(福)鹿島更生園	鉾田地方	314-0012鹿嶋市土井1129-10